

2024 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	伊藤 恵美子
最終学歴	学 位	専門分野
名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程修了	博士 (学術)	日本語教育学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

自律的行動のできる学生の育成

【目標】

受講生一人ひとりが受講開始時より確実に学力が向上し、人間的にも成長して校訓「真面目」が自律的に行え、「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」になるよう指導する。

【方針】

周囲に目配りして自主的に動ける、相互合意したルールを遵守できる人間に成長してほしいので、大人として日々対等に接する。

【計画（方法）】

教職員の心構え「子弟を教育するは、私事に非ず。天に事うるの職分なり」を常に念頭に置き、近年学力の二極化が顕著な本学の実情に勘案して、個々の学生に対する指導（長期休暇中の研究指導等）の見直しを不断に行っていく。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

日本語表現Ⅰ、アカデミック・ライティング、総合演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

日本語表現Ⅱ、総合演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ

○教育方法の実践

2024 年度の教育実践は、いわゆる大学のライティング教育に加えて、単位過少学生に対して生活習慣の見直しを軸に単位取得に向けて個別指導を行った。

前者は、これまでと同様に専門分野の知見を活かして、日本語表現Ⅰ・Ⅱで現代日本語文法と語彙を復習してから、アカデミック・ライティングで大学生に求められる客観的な文章を実際に書き、総合演習で新聞から現代社会の課題を探り、専門演習Ⅰ・Ⅱで活字資料を批判的に読み、春期休暇に補習授業を行い、専門演習Ⅲ・Ⅳで「卒業研究ノート」を活用して卒業研究を完成させた。入学から卒業まで一貫してアカデミックスキルを養うことを通して、教育活動の目標に到達した。

後者を行うことになったのは、2期連続でGPA1.0未満の単位過少学生が配属されたからである。一面識もない、つまり講義科目を受講したことがなく、演習選抜の面談など決められた手続きを怠った学生の氏名が総合演習の名簿に3人も記載されていた。3人の1年次取得単位は、4単位（基礎演習Ⅰ・Ⅱ）、5単位（基礎演習Ⅰ他3単位）、6単位（基礎演習Ⅰ・Ⅱと他2単位）で、学生たちは「勉強しなくてももらえた」と口にした。一人目の学生はアルバイト中心だった生活を保証人と相談して立て直すとともに、指導に従い履修登録を行い、前期の成績はGPA1.0を超えた。

取得単位は後期には合計 40 単位になり、目標の仮進級が叶った。二人目の学生は履修登録の指導を無視したこと、教室での私語が多いこと、教授者の指示を正確に聞き取れないことなどに加えて、基礎学力が低く、課題が出せなかった。1 年次も 2 年次も後期取得できた単位はゼロで、前期当初の「進級できなかつたら、やめる」の言葉どおり退学願を提出することになった。三人目の学生は二人目の学生に合わせて履修登録のアドバイスを聞かなかつたこと、スマホ漬けで昼夜逆転した生活で遅刻が続いたこと、課題が出せなかつたことから単位が取れなかつた。退学から、留学、他大学への編入と二転三転して、2025 年度前期は将来（編入学）を模索するため、休学することになった。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

単位過少学生を個別に指導する際、学生一人ひとりの家庭環境・性格・学習歴・卒業後の進路などを理解するため、保証人さんと面談を繰り返した。日々個別指導を続けるのは精神的な負荷が非常に大きかつたが、学生が望む道を進めるよう具体的にサポートすることができた。それにより、退学者は最小限の 1 人とどまつた。

総合演習の単位過少学生に共通して、高校 3 年間コロナ禍でオンライン授業が中心で、勉強を日常的に疎かにしてきたこと（学生の振り返りでは「PC をつないだままゲームしていた」）が、入学後の学習姿勢・単位取得に甚大な影響を与えたことが分かつた。

また、前期に GPA1.0 以上に浮上し仮進級できた学生（公立高校出身）は一般入試合格者なので、基礎学力は改めて言うまでもないと思うが、大学教育を施すうえで極めて重要なファクターであることを示している。

II 研究活動

○研究課題

- (1) 応用言語学の課題「第二言語教育のコミュニケーション能力の育成」（究極課題）
- (2) 大学教育の課題「アカデミックスキルの養成」（継続課題）

○目標・計画

【目標】

最新の研究動向を可能な限り把握して研究課題に挑む。

【計画】

- (1) 母語とアイデンティティの関係を考察する。
- (2) アカデミック・ライティングに関するデータの分析を進める。

○2017 年 4 月から 2025 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

(著書)

なし

(学術論文)

- ・伊藤恵美子「学ぶ意欲の発達について：自己評価の観点から」愛知東邦大学『東邦学誌』、第 53 巻第 1 号、2024 年 6 月、47-63 頁
- ・伊藤恵美子「卒業研究の教育的効果：その軌跡を学生の意欲から分析して」愛知東邦大学『東邦学誌』、第 52 巻第 1 号、2023 年 6 月、33-46 頁
- ・伊藤恵美子「アカデミック・ライティングに向けて：ビブリオバトル導入の試み」愛知東邦大学

『東邦学誌』、第46巻第1号、2017年6月、81-95頁

(学会発表)

なし

(特許)

なし

(その他)

- ・伊藤恵美子「コミュニケーション能力の萌芽：言語習得を幼児の母語習得の側面から」愛知東邦大学『東邦学誌』、第46巻第2号、2017年12月、169-176頁

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

日本語教育学会会員、社会言語科学会会員、留学生教育学会会員、日本コミュニケーション学会会員

○自己評価

研究課題である「アカデミックスキルの養成」の成果として、2023年に論文「卒業研究の教育的効果：その軌跡を学生の意欲から分析して」を発表した。この4年生を分析した尺度と同じ尺度を用いて、下級生に射程を広げて分析した論文「学ぶ意欲の発達について：自己評価の観点から」を公表した。いずれも中央教育審議会で重視されている教育と研究を両輪とする大学の在り方に沿うものである。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

2024年3月27日付「2024年度学務分掌」に基づき、研究活動委員会副委員長、研究倫理委員会委員長の主たる業務に努める。

【計画】

研究活動委員会副委員長職、研究倫理委員会委員長職の2年目になるので、本学及び教員の研究活動の推進に貢献する。

○学内委員等

研究活動委員会（副委員長）、研究倫理委員会（委員長）

○自己評価

研究活動委員会では鶴飼学長の下、微力ながら副委員長を務めた。研究倫理委員会では、学長のお力添えをいただきながら各委員の忌憚ない意見を促して委員会を司った。

Ⅳ 社会貢献

○目標・計画

【目標】

大学教員として科学的研究を進め、研究成果を広く社会に還元する。（継続目標）

【計画】

所属学会の論文査読等を通して後進の育成に力を尽くし、学術の発展に貢献する。（継続計画）

○学会活動等

所属学会の論文査読等を通して後進の育成に力を尽くし、学術の発展に貢献する。(継続計画)

○地域連携・社会貢献等

地域連携には該当せず

○自己評価

日本語教育学会学会誌『日本語教育』の査読に 2009 年から携わり、2013 年に学会誌委員会委員の主査(世界で 30 人)に就任し、世界中から投稿される論文の査読を行っている。2023 年からは審査・運営協力員として、今後の学術の発展、及び日本語教育学の研究促進を世界最高レベルで担っており、大学教員として社会貢献を十分に果たしている。2024 年度は日本語教育学会で 10 本、社会言語科学会で 1 本の査読を行った。学会活動は、広告のような商業ベースと異なり、高等教育機関としてあるべき本来のアカデミックな側面であり、中堅大学を目指す本学の知名度向上に貢献するものとして、高く評価できよう。

V その他の特記事項(学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等)

クレド「人間としての尊厳を持ち、前へ進む」を携え、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に向けて、学生が課題達成に向けて協力して取り組み、互いに貢献できるように、担当科目を通して尽力できた。

VI 総括

学生の授業評価(日本語表現Ⅱ)の自由記述欄に「座って聞いて終わりではなく考えを持って話し合いなどができたので良かったです」「他の学部の生徒と交流する機会を設けてくれたこと」「日本語について以前より詳しく知ることが出来た」「常に質問形式にしており一人一人が集中して取り組んでいた」「生徒の自主性が大切にされていた点」「生徒がわかりやすいような工夫がされていてとても良かった」「個人の学びだけではなく、コミュニケーションも学ぶことができた点が良かった」「教授が優しいのと、しっかりやることをやっていたら単位が取れるというところ。教材などは買わないといけませんが、基本的に教材があればできる。新1年生はぜひ受けて欲しい」等々履修生からのメッセージがあった。最後の学生の後輩へのお思いが届いたかのように、2025 年度は現行の日本語表現ⅠをアカデミックライティングⅠに一新して、日本語ライティング科目を全員履修科目として開講することになった。一層の教育活動・研究活動に励みたい。大学運営・社会貢献も例年どおり粛々と行えたので、引き続き行っていきたい。

以 上